

# 第1回 紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 議事要旨

日 時：平成27年7月16日（木）13:30～  
場 所：紀の川市役所本庁舎3階 庁議室  
出席者：委員15名

## 【議 事】

### 1. 開会

### 2. あいさつ

市長あいさつ（副市長代読）

### 3. 委嘱状交付

代表の委員1名に委嘱状を交付

### 4. 委員紹介

事務局より各委員を紹介

その後、事務局紹介

### 5. 会長、副会長の選任

紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会設置要綱第5条に基づき選出

会長に仁藤委員、副会長に野村委員が選出される

仁藤会長、野村副会長よりあいさつ

### 6. 議題

#### (1) 紀の川市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の概要説明

事務局から人口ビジョン、総合戦略、スケジュール等について説明

#### (2) 策定に向けての意見交換について

（会長）

委員の皆さまの意見交換に先立ち、本日は、和歌山県那賀振興局長である委員にもご出席  
いただいておりますので、まず県の総合戦略の概要を説明していただきたい。

[意見要旨]

（委員）

国は、今後人口減少傾向が進む中でその減少に歯止めをかけること、東京一極集中を是正し  
ていくことを目的に戦略を策定している。それに基づき県は、知事を変えて2か月程度で集中  
的に人口ビジョンを作成した。

国の人口ビジョンは、2060年に1億人程度確保することを目標としている。

県の人口は、2040年に70万人、2060年には50万人程度になるとの推計がでている。県は  
2014年で96万6千人。2008年の推計では2014年が95万人程度。1万5千人を何とかくい  
止めることができたが、人口が減っている。

将来の人口をどうみるのかが重要。施策を行うことによって積み上げてこうなるという方法  
もあるが、どうなるのが望ましいかという観点から、高齢者1人を現役世代2人でみるには  
どうしたらよいかポイントをおいて、2060年に70万人という目標をたてた。

そのために、働く場をつくる、子育て、安全安心な暮らしをクリアしていくということで、



総合戦略を作成している。

国は4つの柱だが、県は4つ目を2つに分けて「安全・安心な暮らしを実現する」という柱を独立して立てた。また、県は進捗管理目標と行動指標を設定して進捗管理をしようと考えた。例えば「企業誘致」であれば、「〇社誘致」が進捗管理目標、それに対し行動指標は「誘致するために年に〇社を回る」というような数値となります。

(会長)

県が70万人という目標に達するために県でこのように幅広い検討をされている。本審議会はいろんな分野のご専門の方がお集まりなので多面的なご意見をいただきたい。

(委員)

「仕事をつくる」という点において「新たな投資を盛んにし」という観点から、県商工観光労働部と連携し、和歌山の投資環境を整備して元気にしようという取り組みを進めている。

もう1点、暮らしやすさという観点から、移住促進の観点から県過疎対策課とも連携して都心から地方での「創業」というところで考えています。

仕事をつくる上では、外来型発展（企業誘致）と内発的発展（起業）の2つの側面があると言われますが、紀の川市に在住の方が小さくてもいいので仕事を立ち上げるという側面、また、東京や大阪などの都市部から、ぜひ紀の川市で古民家を改装してカフェをやってみたいという起業の点があるのではないのでしょうか。

また、紀の川市は農業環境もよいため、新規就農という視点もあってもいいのではないかと。

次に観光振興という点で、政策投資銀行の発表によると大阪圏に仮に1000万人の観光客が来ると溢れるということだが、その時には和歌山も受け皿になるチャンスではないかと考えています。

次に、観光振興には「体験型のイベント観光」を用意していかなければいけないと言われていて、できれば7日間、和歌山県で過ごせるようなことを考えてはどうかという話もある。

紀の川市でも体験型の観光が考えられるのではないかと。

(会長)

イメージ図にはないような側面のご意見もいただけたが、事務局のコメントはないか？

(事務局)

イメージ図は主だったものを入れている。創業支援・起業については総合戦略に位置づけるところと考えている。この3月、4月でまた商工観光課と商工会で創業支援計画を策定しているところでもありますので、総合戦略に必要であると思っている。

また、体験型観光については、「フルーツのまち」として、商工観光課において昨年度から市民が中心となった「紀の川市フルーツツーリズム」の動きがある。その動きは、集まった人と人との交流が広がり、紀の川市の地域づくり、人づくり、魅力づくりにも寄与するものと考えます。

(委員)

地域創生について一般の方と話をしていると、「働くところがあれば、紀の川市に人口は残る。」というひと言につきる。

最近、県や市は、「特殊を一般化」した言い方をすることが多い。特殊に成功したことを、あたかも全体に広がるように言っている場合が多い。

例えば、6次産業化についても誰でも成功するような錯覚を与えている。しかし、現実には儲

けているのは1割ぐらいとの話です。

企業努力をして最後には農産物を買いたたくしか方法がなくなるというのが6次産業をやっている人の考え。こういう方々は現在、補助金としていただけるお金が多いのでやっていけるがこれがいつまで続くかわからない。

農業観光は誰でもできるもので、特殊な手法は不要。例えば、ジュースをつくるのは簡単な設備さえあれば誰でもできる。ただ、次から次へと新しい品種をつくりだし、かつ、またどこへ売っていくのか、常に考えていかなければ到底維持できるものではない。

和歌山県の農業は惨憺たる状況である。今までは梅がよかったが、現在は梅の単作はするなというような言い方をするようになってきた。例えば田辺のほうでも「梅園」が、無料で借りることができる状況。

紀の川市の農業は、大阪に近く、野菜の大産地になっても当たり前だと思うが、例え生産量が多くても、コスト競争で和歌山はなかなか勝てない状況。ほ場、水などの基盤整備ができていないためと思われる。不整形な土地を活用するにはコストが掛かりすぎるため、例え運賃が高くても少し遠くから運んだほうがコストは下がる。果樹も消費量はどんどん減っている。

農業は1年、2年でどうにかなるものではなく、長期的な展望で考えていく必要があります。

県は、和歌山の農業をどうしていくのか。県が農業遺産として申請している場所の真ん中で太陽光発電をするといっている。昔は苦労してそこで農業を成り立たせてきたということを見てもらうことに価値があり、観光も考えられるのではないか。観光も農業もどっちつかずになるのではないかと心配している。

農業は想像以上に大変である。新規就農も、「めっけもん広場」があるから確かに希望者は来てくれるが、その方から提出される計画表は見込みが非常に甘くなっている。現状のままでは5年後にはさらに耕作放棄地が増えると考えられている。中間管理機構での貸し借りも10%以下である。不整形で基盤整備ができておらず、軽トラが入れないようなところは誰も借りてくれない。これらの現状をふまえ、本当に紀の川市に必要な計画をたてなければ、夢みたくないことばかり言っていると、だんだん悪くなります。

農業はそんなに簡単ではないので、十分考えてほしい。各市町村全部同じことを書くのではなく、紀の川市ではこんなことができるというのを示していけるとよいのではないか。

(会長)

農業の深刻な意見が出たが、どうか？

(委員)

人に住んでもらって人口を増やすことばかりを考えるのではなく、まず人に来てもらうことから始める切り口を考える方ができるといえるのではないかと。その上で、3年先、10年先の農業を考えていくべきではないか。

何とか紀の里農協30億の販売を絶対維持するというのがあり、ここ5年、10年、維持してきているので、今後もせめてそれは維持したい。人口は減る、農業人口も面積も減るのは分かっているが、しかし生産力はあげるといなのが、農業サイドの思いです。

それらと雇用などの視点をうまく合わせて施策を考えられるとよいのではないかと。これまでの施策で網羅されていると思いますが、具体的にどう実現していくかを考えていく必要があるのではないかと。

(委員)

今の意見にもあったが、生産量は減っても販売量は減らさないといとなると施設園芸も考慮する必要がある。不整形で軽トラックでも通れないような土地にビニールハウスをしてもコストがかかりすぎる。基盤が出来ていなため。実現は大変。

(委員)

背後に人口の多い都市を控えているから、これまで農業振興ができたということがありますので、これを活かさないといけない。九州の糸島でも、背後に福岡市があるので、多くの売上があります。紀の川市だけの発想では無理なところもあるのではないかと。

(会長)

農業資源の切り口から人口の確保のご指摘があったが、事務局としてどのように活かしていくつもりか？

(事務局)

市長の思いもあり、基幹産業である農業をいかにして取り組んでいけるかということはずっと考えているところでして、今後ご協議、ご指導いただきたいと思っております。

(会長)

農業以外の側面で誘致企業等はどうですか？

(委員)

工業でいいますと、若者が地方に定着せず、大学で県外へ出て行き、そこで就職してしまうといったパターンが和歌山県では一番問題ではないかと考えます。

しかし企業側から言えば、若年労働者がある程度勉強して帰ってきてくれるのがいいという点もあり、うちでは大卒で帰ってきて就職したいという方を最近ねらいとしています。

人口が減るので、増やす方向に考えていかなければならないが、既成概念にとらわれずに考えることもひとつ必要ではないか。日本人は減っていくとしても、外国人も自由に行き来できる環境になっており、紀の川市は関西空港に和歌山県で一番近い地域ですので、観光客だけではなく、海外からも優秀な人材に自然豊かな紀の川市に移住してもらいなども考えてもいいのではないかと思います。当社は中国から技能実習生を受け入れており、仕事の面白さや日本の過ごしやすい環境で仕事を覚えると、帰国してもまた戻ってきたいという人が多いということもある。うまい受け皿、仕組みをテスト的にでも考えることも必要ではないか。

(会長)

次に女性のご意見はいかがですか？

(委員)

結婚、出産、子育てのことを考えていく中で、保育所は今1歳からの入所になっていますが、待機児童もあり、3人目、4人目と子どもが多くなると保育所に預けるのが難しいと思います。

また、住宅を新築する場合、打田の本庁舎周辺は農地転用の規制がきつくて住宅が建てられないという声を聞きます。農地の耕作放棄地も活用できるようにしてもらえるといいと思います。住んでほしい、きてほしいというのであれば、そういう法律などの根本を少し変えていくことも必要ではないか。

(会長)

和歌山県は、高校卒業の若者が県外に出てしまう、ワースト1位となっています。

次に学校関係はいかがでしょう？

(委員)

小学校から中学校へ進学する時、地元の中学校に来てほしいと思い頑張っていますが、県立や市外の私立中学校へ進まれる方もあり、地元の中学校としてさびしい気もします。

(委員)

高校生で就職を希望する生徒の8割近くは地元への就職。最近景気が少し良くなってきたこともあり、大阪管内からの求人も結構あり、特に橋本などは流出しているのと、新宮等は名古屋のほうへの流出もあるが、それ以外は7~8割が地元での就職となっている。

ただ、進学する生徒については、県内の大学には限りがあり、県外に出てしまう。県内で育てた人材をぜひ地元企業に採用してもらえような対策は重要。

Uターン、Iターンしてもらうための企業説明会等に参加する生徒も最近が増えてきた。

和歌山県内にはこれだけいい企業があるというPRはもっとすべき。

全体的にみて、有効求人倍率は全国で1.16倍、和歌山県全体で1.06倍。紀の川市の地域だけで見ると、0.6程度。企業が少ないということと、人を雇おうという意欲が低いという状況。地域性もあるが、どれだけの企業があるか、その採用方法がどうなっているか、そのあたりも見ていく必要があるかもしれない。

(委員)

地域間競争がものすごく熾烈になってくると思われる。その中で勝ち抜くためにはこれまでの延長線上の発想も大切だが、新しい世の中の動きを的確に自分達のものにするというのが求められるのではないかと思う。

冒頭の市長からの話を聞き、京奈和関空連絡道路は前に動いているのだろうと感じた。京奈和関空連絡道路はこの地域にとって、ものすごく大きい画期的な話だと思う。和歌山市や岩出市よりも関空が近くなる、それを念頭に入れて考えるべき。今回の戦略は5か年計画なので、どこまで位置づけられるかはありますが、次のステップになるとしても、地域づくりの計画上でもものすごく大切なことだと思う。厳しい人口減少社会、特に地方にとって厳しくなる中で、勝ち抜くために新しい発想、新しい展開が求められ、紀の川市にとって、前向きな話として京奈和関空連絡道路の話は非常にすごいことだと思う。

(委員)

商工会でもいろいろ検討しております。後継者も少なくなっている中で、紀の川市だけでなく、岩出市、紀美野町、市内別組織の那賀町を入れたブロックを立ち上げ、観光協会、商工会と一緒にやっていきます。貴志駅のたま駅長のお葬式には、外国の方も多かった。粉河寺など紀の川市には観光資源が多くある。観光と連携して取り組みを進めていきたい。

(委員)

データは正直に出してほしい。いろいろ取り組みや努力をしているにも関わらず、例えば、人口減少率は、和歌山県は下から6番目ぐらい、「ほ場整備率」は全国最下位だったと思う。そういう現実の中でどうするかを考えられるようにみんな努力しているが、この位置にとどまっているということが分かり、認識できるような資料を作ってもらいたい。

(事務局)

いただいたご意見を整理して検討させていただきます。

7. その他 …事務連絡、次回は8月下旬を予定

8. 閉会

資料：第1回紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 次第

①紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 委員名簿

②紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 設置要綱

③紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

④市民アンケート等

(参考資料)

① まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」

② 和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

③ 紀の川市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針

④ 紀の川市まち・ひと・しごと創生本部設置要綱

⑤ 第一次紀の川市長期総合計画 後期基本計画

⑥ 統計きのかわ